

年金制度の理念と構造—より良い社会に向けた課題と将来像



著者 : [高橋俊之](#) (特任研究員)

出版社名 : 社会保険研究所

出版日 : 2024年4月23日

価格 : ¥2200+税

年金制度は、社会経済や人口構造の変化に合わせて、改正を重ねてきました。しかし、将来の年金水準の低下の防止のためには、対応が必要な課題がいくつかあります。また、年金の受給額には個人差が大きく、低年金の防止のためには、被用者保険の適用拡大などの対応が急がれます。遺族年金や障害年金なども、手直しが必要な部分があります。

本書では、図表を多く用いて、現行制度の仕組みや考え方、これまでの経緯を丁寧に説明した上で、今後の課題について論じています。制度の理念や根底の考え方に立ち戻りつつ、年金の制度論、財政構造、実務、社会経済システムの中での位置づけを踏まえながら、年金制度の抱える課題と段階的改革の方向について、できるだけ易しい言葉で、わかりやすく説明します。

目次

はじめに

- 第1章 公的年金制度の意義と役割
- 第2章 年金制度の仕組みと世帯類型
- 第3章 経済と年金
- 第4章 少子高齢化と年金
- 第5章 年金額改定の仕組みと考え方
- 第6章 財政検証と年金水準の将来見通し
- 第7章 基礎年金の拠出期間45年化の意義
- 第8章 マクロ経済スライド調整期間の一致の意義
- 第9章 被用者保険の適用拡大
- 第10章 勤労者皆保険の実現に向けて
- 第11章 遺族年金の仕組みと課題
- 第12章 障害年金の仕組みと課題
- 第13章 第3号被保険者制度と配偶者の加給年金
- 第14章 繰下げ受給と在職老齢年金
- 第15章 国民年金保険料の免除と猶予
- 第16章 年金生活者支援給付金
- 第17章 年金と税制
- 第18章 年金積立金の運用
- 第19章 企業年金・個人年金
- 第20章 年金制度の抜本改革論と段階的改革論
- 補章 年金実務組織のこれまでとこれから